

(トップページ:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(三大石油会社の業績比較:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/ExxonShellBp.html>)

(石油:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/oil.html>)

マイライブラリー:0215

(注)本稿は2012年月13日及び15日の2回にわたり「内外の石油情報を読み解く」に掲載したレポートをまとめたものです。

2012.2.15
前田 高行

三大国際石油企業 2011 年度業績速報シリーズ

II. Shell の業績

(注)詳細は下記同社 HP 参照。

http://www.shell.com/home/content/media/news_and_media_releases/2012/q4_2011_results_newsitem_02022012.html

1. 2011 年の売上・利益・投資及び生産量

(1)売上高

Shell の 2011 年 1-12 月の売上高は 470,171 百万ドルであり、前年度の売上 368,056 百万ドルに比べ 28%の増収であった。後述するように過去 5 年間の同社の石油・天然ガスの生産量はほぼ一定しており、売上増はひとえに石油価格の高騰にある。この結果、2011 年の生産量は過去 5 年間で 2 番目に低いにもかかわらず、売上高は最も大きかった。

(2)利益(図 <http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/2-D-4-93dShell.pdf> 参照)

利益は 30,918 百万ドルであった。これは前年(20,127 百万ドル)比 1.5 倍、日本円で約 2.3 兆円である。利益の内訳を上流部門(原油生産)と下流部門(石油精製販売)に分け、さらに上流部門を米国内と米国外に分けて比較すると、最も利益が多かったのは米国外の上流部門であり、全体の利益の 69%を稼ぎ出している。これに対し米国内の上流部門の利益額は全体の 14%であった。これらを合計すると同社の利益の 8 割強は上流部門によるものであり、ExxonMobil と同様の傾向を示している。

(3)設備及び探鉱投資

2011 年度の投資総額は 26,301 百万ドルである。投資を上流部門、下流部門およびその他部門に分けると、上流部門には全体の 79%を占める 20,681 百万ドルが配分されている。下流部門は 5,479 百万ドル(全体の 21%)であり、その他部門は殆ど投資していない。

(4)石油・天然ガスの生産量

2011年の生産量は石油が一日当たり平均167万バレル(以下B/D)であり、天然ガスは日産90億立方フィート(以下億cfed)である。天然ガスを石油に換算し石油と合計した場合は322万B/Dに達する。ShellではこのほかLNGを年間1,883万トン販売している。

石油生産量を地域別にみると、最も多いのは中東・北アフリカの412千B/D(全体の25%)であり、次いで欧州239千B/D(14%)、米国211千B/D(13%)である。ExxonMobilの場合はアフリカとアジア大洋州で全生産量の60%を占めているのに対し、Shellの原油生産は全世界に万遍なく広がっている。

一方天然ガスについては欧州が33億cfedと全体の4割弱に達する。これに次ぐのがアジア・大洋州(23億cfed)であり、この両地域で全生産量の6割強を占めている。

2. 2007～2011年の業績推移

(図 <http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/2-D-4-93cShell.pdf> 参照)

2007年から2011年までの過去5年間の売上、利益、設備投資及び生産量は以下の通りであった。

(1) 売上高

2007年に3,558億ドルであったShellの売上は2008年には4,584億ドルと大幅にアップした。しかし2009年は一転して前年比39%減の2,782億ドルに急減した。その後2010年には3,681億ドルとなりさらに2011年には4,702億ドルと過去5年間の最高を記録した。

この5年間の売上増減の最大の理由は、石油価格の急騰と急落によるものである。そのことは後述する生産量の変化を見ればよくわかる。すなわち2007年から2008年にかけては生産量が減少したにもかかわらず売上は大幅に増加しており、また2009年は生産量の減少(対前年比-3%)以上に売上高が減少している(同-39%)。2010年は生産量及び売上共に増加したが、2011年の生産及び売上を前年と比較すると、数量は減少(-3%)しているにもかかわらず売上は増加(+28%)した。

(2) 利益

Shellの利益は2007年の313億ドルが2008年には263億ドル、2009年には125億ドルと3年間で6割減少した。2010年には200億ドル台を回復し、さらに2011年には309億ドルを記録し2007年の水準に回復した。

売上高利益率については2007年は8.8%であったが、その後2008年から2010年までの3年間は5%前後に低迷した。2011年には漸く6.6%に回復したものの未だ2007年の水準を下回っている。ExxonMobilの利益率(2007年10%、2011年8.4%)と比べるとShellの利益率は見劣りがする。

(3) 設備及び探鉱投資額

2007年の投資額は246億ドルであり、2008年には急激にふくらみ同期の利益額を大幅に上回る351億ドルに達した。その後2009年から2011年までは毎年260億ドル台で推移している。過去5年間のうち2008年から2010年までの投資額は同期の利益を上回っており、Shellは投資に積極的である。但しこの間の生産量は横ばい状態であり、ExxonMobilに比べ短期的な投資効

率では見劣りがする。

なお投資に占める上流部門の比率は 5 年間を通じ 8 割前後の高い比率であり、Shell 社は ExxonMobil 同様継続的な探鉱開発の投資を行っていることがわかる (ExxonMobil の項参照)。

(4) 生産量 (石油及び天然ガスの合計生産量)

Shell の 2007 年の石油と天然ガスの合計生産量は 332 万 B/D であった。その後は 2008 年 325 万 B/D、2009 年 315 万 B/D、2010 年 331 万 B/D、2011 年 322 万 B/D である。毎年が生産量に大きな変化は無いが、減少と増加が繰り返されており不安定な様相を示している。

(Shell 編 完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行

〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601

Tel/Fax: 042-360-1284, 携帯: 090-9157-3642

E-mail: maeda1@jcom.home.ne.jp